

アになるまち」だと言う。16歳で転落事故に遭い、車椅子の生活になった土谷さん。障がいのために高校も退学せざるを得なくなり、将来に希望が見えず、別府市のリハビリ施設に居た頃は、ひどく荒んだ気持ちだったのだそう。そんな中で現在のご主人と出会い、一緒に過ごす内に別府

の面白さも知っていったのだという。駅前二人で暮らす家を見つけ、施設から出たのは2年前。「まちの人もみんな仲がよくて、みんな知り合いだったり繋がっていたりすることに、安心感や温かみを感じました。人との繋がりを大事にしているのがすごく魅力だと思います。ここだったら暮らしていけると思ったんです。以前はもつと都会に住みたいと思っていたんですけど、今はもう、別府以外に住みたいとは思わないですね」。昔から、湯治客や旅人、外国人など、様々な人々を優しく受け入れてきた別府。だからこそ誰にでも寛容で、個人の活動を大切に



土谷さんが主宰する「こんべぎ出版」では、詩や小説・イラストを集めたアンソロジー「こんべぎのこんべいどう」を季刊発行している。

このまちからは、安心感や温かみを感じる。

にしてくれるのだと、土谷さんは言う。「自分の活動を認めて、手伝ってくれる人がいるのがすごくうれしい。感謝もしてるし、応えたいです」詩の創作や発表、出版など、表現活動に取り組んでいる土谷さんは、「いつか別府が『詩のまち』になると良いな」と夢をふくらませる。



兼通訳



土谷さんのお気に入り



中心市街地 時代の流れを感じられる、細い路地の飲み屋街

別府の重度障がい者センターでのリハビリで知り合った友達と息抜きをしようと、遊びに出かけた別府のまち。その路地裏の佇まいや飲み屋街の雰囲気に「別府ってこんなに面白い場所だったんだ!」と驚いたのだそう。やよい通り商店街はよく通るし、ティールーム「コージーコーナー」のある西方寺通りもお気に入り。通りごとに表情の異なる路地裏を探検するのも楽しい。

>移住者<

土谷エリさん(21歳)

自分らしく、活動できるまちで



移住データ
移住歴:2年
職業:無職(出版活動中)
以前の居住地:大分県大分市
移住のきっかけ:結婚
居住エリア:中心市街地
3LDK マンション

「別府って障がいのある人を見る目も違うんですよ。嫌な視線がほとんど無い。まち自体は坂ばかりでバリアフリーではないんですけど、サポートしてくれる人も多いです。別府に来た頃は、私も障がいをもってばかりで辛い時期だったので、別府の人たちの、あまり差別しない感じにすごく救われました」。土谷エリさんは、別府を「心のケ